

タイ東北部、 モン族難民キャンプでの 国境なき医師団の活動

—— 強制送還におびやかされる人びとの傍らで



©Francesca Di Bonito

ラオスのモン族難民 —背景—
ラオスには人口の8%にあたる45万人のモン族が居住しており、国内で3番目に大きい民族を構成している。モン族のなかには、ベトナム戦争時に米国政府に協力したことから、ラオス共産党政権により政治的迫害を受けてきた人びとがいる。彼らの多くはベトナム戦争終結後に米国などに亡命したが、ラオスに残った人々に対する迫害は続いており、身の安全を求めてタイなどに逃げる人が後を絶たない。



このキャンプで、望まない送還の恐怖におびやかされる人びとに対し、医療・心理ケアをはじめとするさまざまな支援を提供している国境なき医師団(MSF)の活動をお伝えします。

2008年も数度にわたり強制送還が実施されました。タイ政府は、現在フアイナム・カオ村のキャンプにとどまっている6000人についても送還する意向であることを明らかにしています。

彼らは現在、生命の安全の保障もないまま、ラオスに強制送還される危機に直面しています。タイ政府はモン族難民を国際法の下で保護すべき難民として認めておらず、ラオス政府との取り決めにもとづいて強制的に送り返す方針をとっているからです。

タイ 東北部、ベッチャブン県フアイナム・カオ村の難民キャンプでは、政治的迫害を受けてラオスから逃れてきたモン族難民が避難生活を送っています。

MSFは2005年7月から、
ファイナム・カオ村のキャンプでの
支援を行っています。
以下のような包括的な支援によって、
人びとの健康状態の悪化や
感染症の流行を防ぐことができます。

▶ 診療・妊産婦ケア



© Francesca Di Bonito

1日平均15件の妊婦
検診を含む平均130
件の診療がおこなわ
れている。多く見られ
る疾患は、呼吸器感
染症、下痢、皮膚や
目の疾患など。妊産
婦は24時間態勢で診療しており、月に平均25件の
出産がある。緊急治療や特別な検査を必要とする
患者はキャンプ外にある公立病院に移送している。

▶ 心理ケア

調査結果にもとづき、2007年11月に開始された
(詳細は本文参照)。

▶ 予防接種



© Francesca Di Bonito

多くの人が密集してい
る難民キャンプでは、
効果的な予防接種を
おこなうことが不可欠
である。MSFが予防接
種をおこなったことで、
2007年にはキャンプ

内のすべての子どもが予防接種カードを持ち、95%は
接種済みという高い水準を維持することができている。

▶ 食糧配給



© Daniela Abadi / MSF

調査にもとづいて食糧配給を始めたことにより、人
びとの栄養状態は目に見えて改善された。約1,150
家族に対する食糧配給をおこなっている。

▶ 水・衛生・物資配給



© Daniela Abadi / MSF

給水および衛生設備
を整え、炭・石鹼など
の物資の配給を毎週
おこなっている。

モン族難民に関する情報はWebサイトにも掲載しています。併せてご覧ください。

www.msf.or.jp

鉄条網に囲まれたキャンプ



© Francesca Di Bonito

心理ケアのニーズ

族と引き離されて送還さ
れた人や子どももあり、その主張の正当
性には疑問が残ります。

人びとの命を守るために

MSFは、医療・人道援助団体として、
医療を中心に多岐にわたる支援を提供し
ていますが、人びとがもつとも求めている
「強制送還からの保護」を直接実現する
ことはできません。それは政府や国連機関
にしか果たせない役割です。島川医師は
「『ラオスに帰れば殺される』…患者として
訪れる人びとの言葉を聞いて、私は医師
として現状に対し何ができるのか、日々悩
みました」とも述べています。

MSFは、恐怖におびえながら劣悪な
環境に暮らしている人びとの傍らで、彼
らの身体的・精神的な苦しみを和らげる
支援を続けることが自らの役割だと考
えています。同時に、人びとが強制送還
されることのないよう、タイ、ラオス両政
府および国際社会に対しても働きかけて
います。



MEDECINS SANS FRONTIERES
国境なき医師団

特定非営利活動法人
国境なき医師団日本
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-3-13

【寄付の申し込み・資料請求先】
☎0120-999-199
(8:00~22:00 無休)